

ハト派化以上に注目を集める預金保護を巡る発言

本稿は、PGIM フィクスト・インカム チーフ・グローバル・エコノミストである Daleep Singh、およびチーフ・インベストメント・ストラテジストである Robert Tipp が 3 月 22 日に執筆したブログ “Mixed Bank Messages Upstage the Fed’s Dovish Turn” の内容を PGIM ジャパン株式会社が要約したものであり、情報提供のみを目的として作成されたものです。

<要旨>

- 3 月 21-22 日に開催された連邦公開市場委員会 (FOMC) は市場予想に沿った内容であった。米連邦準備制度理事会 (FRB) は 25bps の利上げを決定する一方、声明文からは「継続的な利上げが適切」との文言が削除され、代わりに「幾分の追加的な金融引き締めが適切かもしれない」との文言が採用されるなど、ハト派姿勢も示された。
- FOMC による政策金利の最終到達点の見通しは 5.25% に据え置かれ、利上げサイクルが終了に近づいていることが示唆された。また、パウエル議長も、今回の会合で利上げ停止について議論したことを認めている。加えて、声明文では、パウエル議長が記者会見で強調したように、銀行セクターにおけるストレスは、経済成長、労働市場、そしてインフレの抑制要因となること、すなわち、追加利上げの代替となることが示された。
- 一方、銀行セクターへの対応を巡ってパウエル議長が「全ての預金者は安全だ」と繰り返し強調したのに対し、ほぼ時を同じくしてイエレン財務長官が「預金保険の上限引き上げは検討していない」と議会で証言したことによって混乱が生じた。中堅銀行の無保険預金に対して政府が明確な支援を行わないようであれば、金融システムへのストレスが継続、さらには悪化する恐れがある。
- これらを踏まえて、PGIM フィクスト・インカムは、今回の利上げが当面最後になる可能性があると考え、また、足元の銀行セクターに対する不安は長期化すると見込まれることから、FRB は 2023 年末までに 50-75bps の利下げを余儀なくされると予想する。
- リスク資産市場は当初、パウエル議長のダウサイドリスクを政策評価に考慮する姿勢を好感したものの、イエレン財務長官が包括的な預金保護に否定的な見解を示すと、楽観的な見方が後退した。これを受けて株価は下落し、信用スプレッドは拡大した。一方、米国債市場では年限を問わずに利回りが低下した。また、FRB が少なくとも当面は経済成長に配慮する姿勢を示したことから、短期金利の低下が金利カーブのスティープ化を牽引した。
- 今後目を向けると、市場は経済指標やイベントの動向に左右されると考えられる。FRB は緩和的な金融政策を取ることで銀行セクターのストレスを軽減する余地が限られることを踏まえれば、高成長と高インフレが維持される場合、リスク資産市場は逆風に晒される可能性がある。逆に、今後の信用縮小を考慮すれば成長率とインフレ率が鈍化することも考えられ、この場合には利上げサイクル終了に対する期待感が高まるほか、銀行セクターが安定するための時間的猶予も生まれるだろう。

データの出所(特に断りのない限り) : PGIM フィクスト・インカム、2023 年 3 月 22 日現在。

当レポートは、金融機関、年金基金等の機関投資家およびコンサルタントの方々を対象としたものです。すべての投資にはリスクが伴い、当初元本を上回る損失が生じる可能性があります。

留意事項

本資料に記載の内容は、PGIM フィクスト・インカムが作成した“Mixed Bank Messages Upstage the Fed’s Dovish Turn”をPGIMジャパン株式会社が要約したものです。PGIMフィクスト・インカムは、米国SEC の登録投資顧問会社であるPGIM インクのパブリック債券運用部門です。

本資料は、プロの投資家を対象としたものです。すべての投資にはリスクが伴い、当初元本を上回る損失が生じる可能性があります。

本資料は、当グループの資産運用ビジネスに関する情報提供を目的としたものであり、特定の金融商品の勧誘又は販売を目的としたものではありません。また、本案内に記載された内容等については今後変更されることもあります。

本資料に記載されている市場動向等は現時点での見解であり、事前の通知なしに変更されることがあります。また、その結果の確実性を表明するものではなく、将来の市場環境の変動等を保証するものでもありません。

本資料で言及されている個別銘柄は例示のみを目的とするものであり、特定の個別銘柄への投資を推奨するものではありません。

本資料に記載されている市場関連データ及び情報等は信頼できると判断した各種情報源から入手したのですが、その情報の正確性、確実性について当社が保証するものではありません。過去の運用実績は必ずしも将来の運用成果等を保証するものではありません。

本資料は法務、会計、税務上のアドバイスあるいは投資推奨等を行うために作成されたものではありません。

当社による事前承諾なしに、本資料の一部または全部を複製することは堅くお断り致します。

“Prudential”、“PGIM”、それぞれのロゴおよびロック・シンボルは、プルデンシャル・ファイナンシャル・インクおよびその関連会社のサービスマークであり、多数の国・地域で登録されています。PGIMジャパン株式会社は、世界最大級の金融サービス機関プルデンシャル・ファイナンシャルの一員であり、英国プルデンシャル社とはなんら関係がありません。

PGIMジャパン株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第392号
加入協会 一般社団法人日本投資顧問業協会、一般社団法人投資信託協会
PGIMJ97742